

1 市長としての思い

職員の皆さん、おはようございます。市長の明岳周作でございます。

令和4年度、新年度の新たな仕事の始まりです。コロナ感染者が市内においても発症し続けている状況ということもあり、庁内ネットワークで私の思いを伝えさせていただきます。

市内全域、桜満開となりました。一昨日、日曜日はお天気もよく、様々な場所で桜を愛でるグループの方々を見かけました。嬉しい事だと思っています。

昨日は、海上自衛隊の幹部候補生学校第73期一般幹部候補生課程（第1課程防衛大学出身者108名（内女性13名）平均年齢23歳、第2課程一般大学出身者96名（内女性19名）平均年齢23歳7ヵ月、並びに第5期医科歯科看護科幹部候補生課程21名（内女性8名）平均年齢25歳4ヵ月、合計228名の入校生、我が国の国防の要を担う若者を江田島市にお迎えすることができました。

これから1年間練成訓練を行うこととなります。私は、地元江田島市民を代表し、お祝いと心からの歓迎を申し上げます。

また、まん延防止等重点措置期間が3月22日から全面解除され、多くの御家族の皆様も2年ぶりに参加され、盛大かつ厳粛な入校式が開催されました。

さて、先週の金曜日4月1日、人事異動に伴う辞令や新入採用職員の皆さんに辞令を交付させていただきました。消防職員2名、一般職10名の計12名の新入職員の皆さんから、力強い宣誓もしていただきました。

すべての新入職員が宣誓書に署名をし、自分が何をなすべきか、自分の役割は何かということを宣誓し、仕事に従事するわけであります。

先輩の皆さん、新入職員の育成・指導をよろしくお願い申し上げます。

また、皆さんも、採用されたときのことを思い起こしていただきたいと思います。

「初心忘るべからず」という言葉がありますけれども、江田島市役所の職員になれた喜び、市民のために、まちづくりに取り組めることに感謝すること、このことは、経験年数を重ねたとしても、決して忘れてはいけなと、私は思います。

2 職員の使命・心構え

陀峯山を始め江田島六峰では、山桜が咲き誇っています。奥深い山に咲く桜は何を思い、何を私たちに語ってくれるのでしょうか。

「あれを見よ 深山の桜 咲きにけり 真心尽くせ 人知らずとも」

禅の高僧松原泰道老師（明治40年～平成11年101歳で逝去）が早稲田大学を

卒業した昭和6年ちょうど昭和恐慌で誰一人就職が決まらない中、仲間と心機一転、箱根関所跡地までの無銭旅行をされたそうです。

目的地には「関所跡」という御影石の塔が建っているだけ、その御影石に彫られていた和歌が、この歌だったそうです。

「ああ、いい歌を教わったな。これからどんな苦境にあっても、自分たちは人を騙したり、苦しめたり、要領のいい生き方はやめよう。山の奥深くに咲いた桜のように、誰が見てくれようとくれなかりと、ただただ、真心を尽くしていこうじゃないか。」と5人の友達と誓い合ったそうです。

私は、平成21年に松原泰道先生のこの道歌の特別講話を読んだ時に、感動しました。私たち公務員の心構えだと。

この道歌が教えてくれるように、誰が見ていようと見てまいと、私たち公務員は、与えられた職務を、この道歌の心のように、全うしなければならないと私は思っています。

私たち、江田島市職員の使命は、江田島市の使命は、何かと問われれば、市民の福祉の増進にあります。福祉というのは幸せのことです。私は昔から、福祉の向上とは、「市民の喜びを増やして悲しみを減ずること。」であり、そのことが我々、職員の使命だと思っています。

そして、江田島市職員として職務に向かう姿勢、スタンスは、決して、市民の要求目線、依存目線で仕事をするではありません。次の世代を含めた市民本位で、仕事をさせていただくということを申し上げたいと思います。

それは、何か施策を決定する際や事業を進める際には、何が江田島市、何が江田島市民にとって、最善かという価値判断でもって、仕事をさせていただくということだと思っています。

さて、10年後、20年後の江田島市は、どうなっているのでしょうか。それは、これから私たちがどんなことをしていくかにかかっています。それは私たちが、これから、蒔く種にかかっています。様々な事業です。

江田島市の未来は、この一瞬から蒔き始める種によって変わっていきます。

あなたは、過去にどんな種を蒔いてきたでしょうか。自分の蒔いてきた種が芽を出し、咲いた花が今のあなたです。そして、今の江田島市なのです。

今から、質の良い種を蒔けば、あなたの未来は、江田島市の未来は明るいものになるということです。（怒らない技術 島津良智著 抜粋）

市長就任後、江田島市職員の使命・江田島市の使命を、職員の皆さんに機会ある

ごとにお伝えしております。

私の夢は、市民の皆さんから、職員皆さんの日頃の仕事を通じて「江田島市の宝は、沢山あるけれども江田島市の職員が宝だ。」と言ってもらえること、そのことが市長としての夢であるとお伝えしております。

その言葉を市民の皆さんから言ってもらえたときには、きっと江田島市は、今よりもいいまちになっていると確信するからであります。

私の考え方を、職員の皆さんが共有して、仕事に取り組んでいただくことが、組織の強さ、江田島市のよりよいまちづくりに必ずつながっていくものと考えております。

このことを実現するためには、決して難しいことではないと私は思っております。お願いしたいことが三つあります。

一つは職員の皆さんが、日々江田島市の職員として働かせてもらうことに「感謝」すること、二つ目は市民の方が職場に来られた時に「笑顔の挨拶をしてもらうこと」、三つ目は市民の方に寄り添って、業務に取り組むこと、「感謝、笑顔の挨拶、寄り添うこと」であります。このことを続けることによって、仕事もきっと楽しくなると思います。

3 「念ずれば花ひらく」

思いを持つことの大切さ、「念ずれば花ひらく」の精神であります。

仏教詩人の坂村臣民先生（明治42年～平成18年逝去97歳）のお母さんは、御主人を早くに亡くされ、子供を育てるのに非常に苦労されたそうであります。そうした苦しい生活の中で「念ずれば花ひらく」と気丈に唱えながら、子供たちを育ててくれたそうであります。

「念ずれば
花ひらく
苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころから
となえるようになった
そうしてそのたび
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった」

この詩の意味はただ念じていれば夢や目標が叶うというものではありません。念じるよう祈るように日々努力し実践することによって、夢や目標がかなえられるという意味であります。一日一日の積み重ねが、未来の私たちを築いてくれます。江田島市をいいまちにする、この思いを職員の皆様と共有して、日々取り組んでいきたいと思えます。

4 江田島丸・「住む人も訪れる人もわくわくできる島えたじま」

私たちの仕事を航海に例えると私たちは、「江田島丸」のクルーズ・乗組員です。お客様は市民や観光客の皆様。私が船長で、皆さんは士官。それぞれの役割を担う同僚の船員と共に、それぞれの仕事をして、この江田島丸を安全に目的地まで運ぶ。この航海は、歴史という航海ですから、もちろん海図はありません。しかしながら私たちが責任を持って江田島丸を、江田島市を明るい未来に運んで行かねばなりません。

人口減少の中にあっても、私の理念である「住む人も訪れる人もわくわくできる島えたじま」、具体には「江田島市には活気がある、市民が元気で夢があり、安全に安心して暮らせるまち、子どもたちも夢や目標を持つことができるまち」、そういったまちを、職員の皆さんや市民の皆様と一緒に実現していきたいと決意しております。

そういう意味で市長である私の仕事は、現在おかれている歴史的局面を認識して、江田島市の方向や目標を定めるということ。それから、最適な組織を作り、最適な人員を配置することだと考えております。

昨年度策定した二つの計画、「江田島市行財政経営計画」と「江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略」に基づき、種を蒔き、各種施策、市政を推進してまいります。

いずれにしても、職員の皆さんにお願いしたいことは、市民の立場になって、考え、行動する。この行動の一步を踏み出す、前向きに市民の皆様役に立とう、この熱い思いを持つことの重要性を、是非、共有していただきたいと思えます。

こうした、職員の皆さんの仕事を通じての取組の積み重ねが、必ずや、市民の皆様にご感動をいただけたらと思えます。そして、いいまちづくりが、できると思えます。

結びになります。「住む人も、訪れる人もワクワクできる島江田島」を目指して、私も皆さんの先頭に立って、頑張ってまいります。

共に江田島市役所で、まちづくりの仕事に取り組むことができることへの感謝と熱い思いを持って、頑張っていきましょう。よろしく申し上げます。以上です。